

所 管 事 務 調 査 報 告

平成 2 8 年 6 月 2 8 日

薩摩川内市議会市民福祉委員会

委員長 永 山 伸 一

1 調査事項

- (1) 廃棄物対策について
- (2) 子育て支援について
- (3) 高齢者支援について

2 調査先

岡山県倉敷市、株式会社スマイルハート（兵庫県尼崎市）、京都府長岡京市

3 調査日

5 月 1 0 日から 1 2 日まで（3 日間）

4 出席委員

永山委員長、中島副委員長、上野委員、橋口委員、福田委員、森永委員、森満委員

5 調査目的

住民の協力により家庭生ごみ等を有効利用している先進事例、デイサービスと保育施設を併設した宅幼老所の取組及び認知症高齢者を地域で見守る取組を調査し、本市における今後の施策展開の課題等を調査する。

6 調査概要

(1) 倉敷市船穂町堆肥センターの取組について（岡山県倉敷市）

倉敷市船穂町堆肥センターは、旧船穂町において平成 7 年に整備された施設で、現在は一般財団法人倉敷市船穂農業公社が管理・運営している。ここでは、資源の有効利用と環境にやさしいリサイクル社会の構築に向け、農業残さと家庭や給食センターから回収した生ごみに、米ぬか、菜種かす等を混合し発酵させた有機堆肥を生産している。平成 2 6 年度は、1 6 1 トンの農業残さ等から 1 4 8 トンの有機堆肥を製造した。この有機堆肥は、有用な微生物を多く含み、作物の育成促進や病害菌の活動抑制等の効果があることから、農業事業者などから継続的に大口の需要があり、全国へ販売されている。

現在、この取組に船穂町の約 4 5 0 世帯が参加しており、各家庭においては、専用のバケツに生ごみとボカシを入れ、週 1 回の指定日に戸外に出しておくとしるばり会員が回収し、新たなボカシと空のバケツが返却されるシステムとなっており、独居老人の見守りや声掛けにも一役買っている。

この取組は、住民の理解と協力がなければできないものであるが、高齢化などの影響により参加世帯数が年々減少していることや、施設の老朽化が課題であるとのことであった。

(2) 宅幼老所あゆみのいえの取組について（株式会社スマイルハート）

宅幼老所あゆみのいえは、2 階建ての民家を改修し、1 階が介護保険法に

基づく通所介護事業のデイサービス施設、2階が保育施設となっており、株式会社スマイルハートが運営している。子どもと高齢者が一緒に楽しく過ごせる空間を提供していることが特徴であり、毎日交流の時間を作っている。

通所介護利用者の多くは要介護2以上の認知症高齢者であるが、子どもと触れ合うことで、認知症の進行が穏やかになる傾向が見られるとのことであった。また、核家族化が進み独居老人が増えている現代において、世代を超えた交流を日常的に行うことができる宅幼老所の必要性を強く感じる一方で、保育施設については、認可外保育園に該当するため、行政からの補助はなく、厳しい経営状況となっているとのことであった。

(3) 認知症施策総合推進事業について（京都府長岡京市）

長岡京市では、京都府のモデル事業を受け、平成24年度から認知症施策総合推進事業として様々な取組を実施している。

「認知症対応型カフェ事業」では、医療機関型、サロン型、出前型の3種類が設置されているが、特に、医療機関型においては、受け皿の少ないとされる軽度認知機能障害（MCI）により、介護保険の通所サービスの利用につながらない要介護1以下の高齢者とその家族を対象に、医師による個別リハビリプログラムを実施するなど、きめ細かい支援が継続的に行われている。

「おでかけあんしん見守り事業」においては、認知症高齢者等の身体的特徴などを事前に登録しておくことで、認知症等で行方不明になる恐れのある市民が安心して暮らすことができる地域づくりを目指している。登録者には、迅速に身元確認ができるよう番号付きの靴用反射シールなどがあらかじめ配付されている。

登録者が行方不明になった場合には、速やかに捜索に取り掛かれるよう関係機関や「おでかけあんしん見守り隊（金融機関や商店など103事業所）」に対して、必要な情報を提供できる体制が整っている。さらに、行方不明者の早期発見・早期保護に向けて、「メールサポーター」への捜索協力依頼のメール配信や、スマートフォンやタブレット端末に専用のアプリをインストールした「ぶじかえる応援団」の団員が、「かえるお守り（タグ）」を持った行方不明者とすれ違ったときに、これらの機器から位置情報が送信されるといった取組など、見守り体制の強化が図られている。

7 所感

- (1) 本市においても、倉敷市の取組を参考にし、環境問題に対する意識を高め、市民とともに資源の有効活用やごみ減量に取り組んでいく必要がある。
- (2) 宅幼老所あゆみのいえが取り組んでいる子どもと高齢者の日常的な交流により、高齢者が生きることへの自信を取り戻すことができるという効果については、本市においても参考となる事例である。
- (3) 長岡京市の認知症施策は、本人やその家族だけでなく、医療機関、民間企業、市民を含めた地域全体での取組が継続的に実施されていることから、本市の認知症施策を推進する上で参考となる取組である。